

事務局使用

利用者の思いを実現する為に

～センター方式（私の気持ちシート）を通して～

秘めた思い

その人らしく

外出

徳島県・藍住町

ふりがな ぐるーぷほーむ おやのいえ
種別・施設名 グループホーム 親の家

ふりがな かいごしょくいん にしかわ ゆう
職種・発表者名 介護職員 西川 優

共同研究者名 福富郁代

共同研究者名 大川真美子

【親の家基本方針】

入居者は介護を受ける人ではなく生活の主役である入居者の心の動きに共感しありのままを受け止める

（取り組んだ課題）
親の家は、毎日2回の買い物、外食、季節ごとの外出（初詣、花見、阿波踊り等）多様な外出を行い、職員は充分外出していると思っていた。ある日一人の利用者がテレビを見ながらため息をつき、「かごの中の鳥じゃ」と言われた言葉をきっかけに、今までの外出は、「職員達の自己満足ではないか？利用者の思いを理解出来ていないのではないか？」と考えさせられた。そこでセンター方式の「私の気持ちシート」を使い、改めて利用者の気持ちを知り、その人らしい外出を目指してみることにした。

（具体的な取り組み）

- ①個々の利用者の思いを知る為に職員が利用者全員の「私の気持ちシート」を記入する。
- ②利用者と普段の会話の中で出てくる思いや、行きたいであろう場所などがあれば忘れないように記録し、記入した「私の気持ちシート」と合わせて利用者の思いを考える。
- ③外出を行うために職員で話しあう。
- ④外出時に活用する。

<事例紹介> Sさん 103歳 要介護4
夜間せん妄があり、日中でも気分の上下が激しい。80歳くらいまで自宅のガソリンスタンドの仕事がされていた。

<取り組み>
私の気持ちシートをまとめてみると Sさんは「かかさん（嫁さん）に会いたい」や「家やお店がどうなっているのか気になる」との言葉や Sさんは昔から仕事熱心な人でいつも家の様子を気にされたり、部屋でずっと外を見ては何かを思っていることがある事、嫁さんは普段から頻りに面会に来てくれていたが、Sさんは充分満足されていない様子等から、自分からはどこかに行きたいという事はあまり言わないが、家に帰りたいとの思いがあるのではないかと思われた。そこで、実家への里帰りを計画した。

（活動成果と評価）
嫁さんにSさんの「家に帰りたい」という意思を伝えると「連れてきてください。待ってます」と快く承諾してくれた。

Sさんは家に着くと「ただいま～」と大きな声で言われ、嫁さんと一緒に仏壇にお参りをしたり、お茶を飲んだりした。嫁さんも「また家でこうして過ごせるとは思ってなかった」と Sさんと一緒に涙をながされていた。嫁さんも家に連れて帰ってあげたいとは思っていたが、自分たちでは負担が大きく無理だったので喜ばれていた。今回、私の気持ちシートを活用することによって認知症により自分の秘めた想いを伝えられない、言葉にならない想いを知り、外出に繋げることが出来た。又、この取り組みを行う事により、職員間で意識の持ちかたが見直され、気持ちシートを使わなくても、今までは気付かなかったことにも目を向けることができるようになった。例えば、他の利用者が新聞でイベント行事の所を熱心に読んでいる事に気づき、とても思い入れがある歌のコンサートがあることを知り、行ってみたいと言う気持ちを見逃さずに見つけ実現することが出来た。

（まとめ）
『親の家』では利用者が生活の主役である。何をするのも利用者と一緒に、利用者の立場にたって考えることが大切で、日常生活を送れる場所を支援する。そのためにも、現状に満足することなく、常に話し合いをする機会を設けることを気付かされた。今まで利用者の思いを理解していたつもりだったが、私の気持ちシートを使用することによって利用者の思いを改めて知ることができた。今回、外出したいという思いが実現できたことによって、普段見られない笑顔が見られ、より一層生き生きとされ、話も弾まれていた。

（今後の課題）
今回の取り組みにより、「外に出たい」という一つのやりたいことを全員ではないが満たすことが出来た。しかし、外出以外にも「おいしいものが食べたい」「好きな趣味活動をしたい」など利用者のやりたいことがたくさんあることが分かった。これからも今回の私の気持ちシートを基に職員で話し合い、利用者の笑顔をいつまでも絶えず事ないようにこれからも努力していきたい。